

Kaleidoscope

Vol.3

“ DEADLY WEAPONS ”



くろがね ゆう

イラスト：明日 蘭

どうして、なぜ？

日本では、原則的に銃と名のつくものは、一般人は所持することができない。だから、中には一度も本物の銃を見ないで一生を終える人もいることだろう。

あるいは、武器なんてモノを見ないで過ごせたら、その方が幸せかもしれない。が、ボクはイヤだね、そんなのは。

ボクは武器にとてつもなく興味があるし、はっきり言って大好きだ。だからって、戦争や人殺しが好きなわけじゃない。読者の皆さんもそうだと思うが、ブンカジンとかセンサーと呼ばれる方々のおっしゃる理論とは、まったくちがうんだなあ、これが。

と、まあシソー的なこむずかしい話はさておき……。好きなモノについて、いろいろと知りたくなるのが人情。ましてボ

クは徹底的に知りたいほうだから始末が悪い。それも、日本じゃ認められていないモノが知りたくてしょうがないから、外国に解決を求めるしかない。

しかし、外国へ行く金も、度胸も、語学力もないわけで、頼るは専門誌のみ。それなのに、知りたいことがいつも専門誌に載っているとは限らないわけで……。

たとえば映画でよく見かける「マグナム弾1発で走っている車を止める」なんてことができるのだろうか？ そしてサイレンサーってどのくらい効果のあるものなんだろうか？ マシンガンを連射したら、やっぱりバツバツと敵をなぎ倒せるものなの？

もう疑問は疑問を呼び、頭の中で渦を巻きだす始末。日本の映画やTVは問題外として、欧米の活劇も、演出テクニクという面があるから、どこまで信じていいかわからない。欧米と言えど銃オンチはいるわけだし。

しばらく寝ても覚めても「どうして、なぜ？」の日々が続いた。

デドリー・ウェポンズ

数カ月前のこと、サラウンド・システムを導入したから、ぜひ一度遊びに来いという友達の家に行った。

「ブレードランナー」
「地獄の黙示録」なんかの
レーザーディスク
で感動した後、珍
しいビデオが手に
入ってね、と友達が出して
きたのが中国に行ったとき
買って来たという人民解放
軍のプロパガンダ・ビ
デオと、アメリカ
で買ったとい
う「デドリー・
ウェポンズ」な
る怪しげなビ
デオ・ソフト。まったく
世界中を飛び回って
仕事をしているヤ
ツはいいよなあ。

STEVE
MCQUEEN



懐っこそうな話し方
で、とても好感が持て
る。

裏方としてバック
を固めるのは、ブル
ース・グレイだ。
ちゃっかりワン・
シーンだけ登場し
ている。

日本で販売され
ていないのは残念
だが、意外とこの
ビデオを見てい
る人は多いようだ。し
かし「まだ見てないぜ」と
いう人のために、ちょっと
だけ内容を紹介しておこ
う。

で「デドリー・ウェポ
ンズ」だが、これは驚きだった。今までに
溜まりにたまって化石になりそうだった
銃に関する疑問の多くが、このビデオを
見ただけで氷解してしまったのだ。

もっとも、英語がわからずに、ほとんど
を想像で補って見たのだが。

サブ・タイトルは FIREARMS & FIRE-
POWER で、一見、銃器紹介や入門者用の
安値ビデオ風。しかし、どうしてどうし
て、企画がしっかりしていて実にマニ
アックな作りになっている。そんじょそ
このヤツツケものとは比べ物にならない。

作っているのは ANITE プロダクション
というところ。そして、驚くなかれ、制作・
脚本・監督・出演の4役を1人でこなすの
が、あのアレクサンダー・ジェイソン。写
真で見るのとはちがって、ビデオだと人

フル・オートは当たらない

ビデオはまず .22LR から始まって、.44
マグナムまで、代表的な拳銃弾すべての
パワー比較を見せる。もちろん、FMJ、
JHP、セイフティ・スラグといったブレッ
トの違いまでも見せてくれる。

ま、この辺は定番であり、どうというこ
ともないのだが次からがすごい。

今度は車(当然、外車というかアメ車だ
な)のドアに対する貫通力の比較。誌面が
少ないので、それぞれの結果はいつかビ
デオが見られたときのお楽しみとしてお
くが、車のドアは思ったよりも身を守る
には効果的だと言っておこう。

拳銃の次はショットガンが登場する。
ライフルド・スラグは簡単に反対側のド
アまで貫通してしまった。

そして軍用ライフルが登場する。

興味深かったのは、前からの疑問を解いてくれる部分。まず車のガソリン・タンクを満タンにして、ライフル弾で射撃して爆発炎上するものかどうか。

結果はNO! トレーサーを使っても無理だった。

次に、防弾チョッキを実際に着て効果あるかどうかのテスト。なんと自分で自分に向けて撃ったり、友人に目の前からFALで(!)撃ってもらうのだから、ゾツとする。効果があるんだねえ。

それから、その防弾チョッキを着けて、片足で立ってFALで撃ってもらう。映画のように吹っ飛んだりはしないんだってさ。フラリともしなかった。しかし、よーや

ジェイソンが好きだとフル・オートグレの速射の比較

50m先の5つの



南原渡末の六連発と
云々のモダンリボルバーを
無尽蔵に射た鞍馬天狗は
不思議でした。

マン・ターゲットに、彼でさえ腰だめでは1マガジン中1発しか当たらないんだフル・オートは。

およそ1マガジンを撃ち尽くすのに3秒かかるフル・オート射撃に対して、速射は4秒で5発撃って全弾命中! ウム、説得力がある。

.357マグナムのパイソンで、車のエンジン・ブロックを撃ち抜くテストもある。KTWを使ってさえ、ちょっとキズをつけるのがやっと。雑誌などの「1発で車を止められる」なんて表現は、真っ赤なウソだとわかった。

アメリカでさえ特別なライセンスが必要だという、サイレンサーのテストも興味深い。なにしろ、その効果が実際に自分の耳

正 確にはサウンド・サプレッサーと呼ぶべきらしいが、オートマチックはそれ専用設計されたものでないと作動しないのだね。

効果は銃から発生する低音域の音と、耳が痛くなるほどの大音量がちょっと低減される感じ。しかし、Hi-Fiじゃないし、ダイナミック・レンジの関係や、録音のときの回路保護のためのリミッターなどの制限によって、これがそのまま銃声でありサウンド・サプレッサーの音だなどとは言えない。ただ、これを何倍かに大きくした感じといって大きな間違いではないだろう。

このテストでMAC10のフル・オート射撃をしたジェイソンが、思わず「ア〜ッ」とため息を漏らすのには笑ってしまった。

ボクの疑問の多くにこの1本のビデオ

は答えてくれた。しかしGUNに興味のある人ばかりではなく、特に日本のTV映画関係のシナリオ・ライターと演出家にこそ見て欲しい。そうすれば、少しは日本の活劇も良くなると思うのだ。

観客が見ていられなくなるような「DEADLY MOVIE」だけはやめて欲しいものである。